

禄存中殺

禄存星と云う星の性情には「愛情」「奉仕」「回転財」などという意味合があります。根底に流れているのは引力・魅力の本能で、その時、その時、今の夢、今の愛情……と、目前の現象を大事にする大変に現実的な星です。

それだけに生活面の逞しさは「十大主星」中、最高であり、遠い将来のことは考えませんが、今日、明日の明るさは見事なものです。

また禄存星には、社会での愛と、家庭での愛とが同一という特性をもっています。

禄存星には、財力と云う意味合いがありますが、この財とか愛情は現世のものであって、人間が生きていればこそ必要なものです。

この経済力というものは、一種の魅力であり、人をひきつける方法でもあるわけですが、禄存星の財は「回転財」という社会における経済力なのです。

ですから、この星をもつ人は事業家とか商人の世界での力量は相当なものがあるのですが、現実主義で、時代の流れとともに歩むため、時代の変動によって財を成したり、逆に失ったりするのです。また、禄存星は医学・薬学の世界の星とも云われているのですが、これも現実への奉仕の現れだからでもあります。

禄存星の思考法は、瞬間そのものであって、未来の夢も、また過去もないのです。

しかし、今ここでの損得とか、プラスとかマイナスかという判断や、目先での苦難に対処する才能は、まことに素晴らしいものがあり、瞬間における頭脳回転の良さはほかに類を見ません。

そして家庭生活を築きあげ、それを守ることは、平和であり安全なのです。(20年、30年先を夢見ることをせず、そのかわり毎日の生活を手堅く、堅実に生きていこうとする気持ちには誰にも負けたくない…という気概を内側に強くもっているからなのです。)

禄存星は人物におきかえますと、父親・愛人と云う意味にあてはめられています。

この星が中殺されますと、善良・義理人情に厚い性情に異常現象が現れて、お人好しになり、奉仕の安売りをして、余計なことまでやってしまいがちになるのです。相手にしてみれば、自分のことを特別な人(恋人)と思ってしまうものですから、当然交際がすすみます。

そういう状況にあっても、この星の中殺者ははっきりと自分の意志を伝えないままに過ごすものですから、好きでもない人(異性)に好かれても、受け入れているような態度をとるものですから。ついには、好きでもない相手と結婚させられてしまうと云うことになりかねないのです。(禄存中殺がある人は本当に相性の良い人とは一緒になれません。禄存中殺者は相手から嫌われるのはごくまれです。嫌な人が近づいて来ても、はっきりと断わることが出来ないのも一つの特徴で、たいていの場合は相手を傷つけまいととして相手にあわすため、結果的には相手に大きな傷手を与えてしまうこともしばしばあるのです。)

当然その家庭生活も理解のないものであって、やがては夫婦縁も薄くなりがちです。(原因はいろいろですが、性格の不一致が最たるものですが、責任がどちらにあるというのではなく、ただ感覚的にあわないのです。)

人によっては、離婚・別居も考えられます。

禄存星は人間関係にたとえますと、父親・愛人でした。ここに中殺の異常現象があらわれますと、中殺者は父親運・愛人運が薄くなります。父親の情を肌で感じるというような機会が殆どなくなり、愛情の触れ合いが極めて少ないものになります。人によっては、父親と早くから死別したり、父親が病気になるとか、また父親が愛人をつくって家を出るとか、いろいろなケースが出て来ます。

禄存中殺者が子供に出ていれば、その子供の親は衰運に向かって行きます。本来ならば子供に恵まれない運をもっている父親に禄存中殺者が生まれやすい傾向があります。

天は子供を与える代わりに仕事運を取り上げた…と考えてもいいでしょう。悲しいことですが、この禄存中殺の子が死ねば、父親の仕事運が再び良くなり上昇するのです。古語に「運命は運命によって買い求めることが出来る」…があります。

また、禄存中殺者は、若年にして家となり一家を支え、一家を盛りたてる宿命を与えられています。

それだけに、自分の進みたいと思った世界を諦めなければならないのですが、経済的には大成するのです。